

展示室 1 人物を描く

肖像画はイギリスでは風景画と並んで特に愛好されたジャンルで、実在する人物の姿かたちだけでなく威厳や愛らしさなどそのひとの内面までも映し出すことがあります。一方の風景画にも点景に人物が描き込まれたものがあります。構図上のアクセントとして加えられた場合のほか、画面に占める大きさは小さくても絵の主題をあらわす重要な意味を持つ場合もあります。また 19 世紀末の美術運動であったラファエル前派では、宗教や伝説から主題をとった作品も多く、時には身近な人物をモデルに神や妖精などがあらわされることがありました。

今回の展示では、こうして絵に描かれた人物像を、肖像画、点景人物、物語などの主人公といったテーマごとに並べてご覧いただきます。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758～60 頃	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホガース	『当世風結婚』第 1 場～第 3 場	1745	エッチング・紙
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760～62 頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
サー・トマス・ロレンス	ラビー・ウィリアムズ牧師	1790 代初頭	油彩・キャンバス
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	自画像		エッチング・紙
サー・ジョン・エヴァレット・ミレイ	ジェームズ・クラーク・フックの肖像		エッチング・紙
リチャード・ウィルソン	キケロの別荘		油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のいる丘陵地帯の森の風景	1745～46 頃	油彩・キャンバス
ジョセフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールダーブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・マーティン	フレッシュウォーター・ベイ	1815 頃	油彩・キャンバス
ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス	フローラ		油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868～84	油彩・キャンバス
サー・エドワード・コリー・バーン＝ジョーンズ	『フラワーブック』より	1905	リトグラフ・紙/ポートフォリオ

5 「天国の薔薇」、13 「彼は来るかしら」、14 「もつれた愛」、19 「炎の荒野」、23 「目覚めて、愛しい人よ!」、26 「世界の驚き」、30 「サトゥルヌスの強い嫌悪」、34 「白い庭」、35 「甘美な草地」、38 「昼と夜」

展示室 2 日本油彩画の魅力

西洋の伝統的絵画技法である油彩画法は、日本において、幕末に横浜や北海道にやってきた西洋人が伝えたことに始まりました。日本人にとって、遠近や陰影をつけて描いていく油彩画を学ぶことは、西洋を知ることであり、そして西洋を通して日本を知ることでもありました。

中にはヨーロッパへ留学し、彼の地で傑作を残した画家も少なくありません。ですが、今回はあえて日本人が描いた日本に焦点を当ててみましょう。

そこに見えてくるのは、どこか脂っぽいながらも、日本的な油彩画とはどんなものなのか、と自問する画家たちの姿です。特に大正時代以降、印象派を経たヨーロッパの絵画をほぼ同時期に知ることができるようになると、作品には、明るい色彩のほかに、それぞれの画家の独特の筆のタッチが見られるようになります。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
山本芳翠	園田銕像	1885(明治18)	油彩・キャンバス
高橋由一	風景(鳥海山)	1880年代	油彩・キャンバス
浅井 忠	収穫	1893(明治26)頃	油彩・紙、板
広瀬孝次	田園景色	1890(明治23)	油彩・キャンバス
諫山麗吉	甲州猿橋		油彩・キャンバス
高橋勝蔵	桃と葡萄	1909(明治42)頃	油彩・キャンバス
野崎華年	富士	1907(明治40)	油彩・キャンバス
小林万吾	朽葉の袖	1907(明治40)	油彩・キャンバス
高村真夫	風景	1903(明治36)	油彩・キャンバス
木村荘八	祖母の顔	1916(大正5)	油彩・板
中沢弘光	灯(加茂川夕涼)	1914(大正3)	油彩・キャンバス
山下新太郎	苔寺	1922(大正11)頃	油彩・キャンバス
石川寅治	房総風景	1923~24(大正12~13)頃	油彩・キャンバス
林 武	女	1932(昭和7)頃	油彩・キャンバス
中村 彝	朝顔	1923(大正12)	油彩・キャンバス
小出梢重	自画像	1918(大正7)	油彩・キャンバス
古賀春江	蝸牛のいる田舎	1928(昭和3)	油彩・キャンバス
藤島武二	「耕到天」習作	1936(昭和11)	油彩・キャンバス

展示室3 スウィングン・ロンドン

イギリスでは、1950年半ば、戦後の荒廃から落ち着きを取り戻し、豊かな時代を迎えつつありました。ライフスタイルの変化にいち早く反応したのは、若者たちでした。彼らは、新しい音楽、美術、ファッションに興味を持ち、斬新で個性的なものを求めました。「スウィングン・ロンドン」という新しい言葉は、『タイム』誌の1966年4月15日号から生まれました。

イギリスからは、ビートルズ、ローリング・ストーンズなどのロック・バンドが世界へ羽ばたきました。また、美術界では、エデュアルド・パオロツィがポップ・アートの旗手として脚光を集めました。彼の作風は、テクノロジーの進歩、大量消費社会、人間の機械化などの世相が反映されています。

イギリスの青春ともいえる、この「スウィングン・ロンドン」の歴史は、1973年のオイルショックとともに幕を下ろしました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピースB、シアン版	1976	リトグラフ・紙
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピースB、クレヨン習作	1976	リトグラフ・紙
リチャード・ハミルトン	フラワー・ピースB	1976	リトグラフ・紙
パトリック・コールフィールド	『ジュール・ラフォオルグの詩(A版)』	1973	シルクスクリーン・紙/本、ポートフォリオ(6点組)
ヴィクター・パスモア	ワインレッド	1964	レリーフペインティング・パネル
ウィリアム・スコット	静物II	1957	水彩・コラージュ・紙
ウィリアム・スコット	ホワイトボールとブラックパン	1970	シルクスクリーン・紙
サー・エデュアルド・パオロツィ	『ムーンストリップス・エンパイア・ニューズ』Vol.1	1967	シルクスクリーン・紙(一部アセテート)/ポートフォリオ(100点組)
サー・エデュアルド・パオロツィ	『零エネルギー実験電池』Vol.1	1970	リトグラフ、シルクスクリーン・アクリル/ポートフォリオ(6点組)
ケネス・アーミテイジ	二人の人物	1971	木炭、グワッシュ、コラージュ・紙 (株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	立っている人物	1971	フォトエッチング・紙 (株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	無題	1972	シルクスクリーン・紙 (株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	四つんばいの女	1973	エッチング・紙 (株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	走っているグループ(a)	1973	鉛筆、グワッシュ、コラージュ・紙 (株)カサハラ画廊寄贈
ケネス・アーミテイジ	飛び跳ねている人物	1974	シルクスクリーン、フォトエッチング・紙 (株)カサハラ画廊寄贈

展示室 4 版画雑誌の世界

日本近代版画の発展に大きく貢献したもののひとつに版画雑誌があります。それは小規模なサークル的な同人誌から、全国の書店や通信販売などで大々的に広まったものまで様々な形がありました。そしてそれは同士による発表、研さんの場であったり、版画の普及の役割を担っていました。

なかでも料治朝鳴が創刊した『白と黒』や『版芸術』は、当時すでに版画家として名をなした存在だった恩地孝四郎や平塚運一、川上澄生、前川千帆らの作品が載っていたほか、谷中安規や棟方志功などが新進の版画家として活躍するきっかけとなりました。

作者名	作品名	制作年	技法・形状
恩地孝四郎	「抒情」『版芸術』創刊号より	1932 (昭和 7)	木版・紙
料治朝鳴	「影」『版芸術』第二号より	1932 (昭和 7)	木版・紙
川上澄生	「かまきり」『版芸術』第三号より	1932 (昭和 7)	木版・紙
深沢索一	「築地風景」『版芸術』第四号より	1932 (昭和 7)	木版・紙
関野準一郎	「旅役者の子」『版芸術』第六号より	1932 (昭和 7)	木版・紙
棟方志功	「竹と草花」『版芸術』第十二号より	1933 (昭和 8)	木版・紙
料治朝鳴	「あねさま」『版芸術』第十九号より	1933 (昭和 8)	木版・紙
前川千帆	「踊」『版芸術』第七号より	1932 (昭和 7)	木版・紙
	『版芸術』第五号	1932 (昭和 7)	木版・紙／本
	『版芸術』第八号	1932 (昭和 7)	木版・紙／本
	『版芸術』第九号	1932 (昭和 7)	木版・紙／本
	『版芸術』第十七号	1933 (昭和 8)	木版・紙／本
	『白と黒』創刊号	1937 (昭和 12)	木版・紙／本
	『白と黒』第二号	1937 (昭和 12)	木版・紙／本
川上澄生	「静物」『白と黒』第三号より	1937 (昭和 12) 刊	木版・紙
畦地梅太郎	「麓」『白と黒』第四号より	1937 (昭和 12) 刊	木版・紙
料治朝鳴	「二月堂」『白と黒』第十八号より	1931 (昭和 6) 刊	木版・紙
横井弘三	「玩具の国」『白と黒』第三十二号より	1933 (昭和 8) 刊	木版・紙
川西英	『港都情景』書窓版画帖十連聚其二	1941 (昭和 16) 刊	木版・紙／本
平塚運一	『伊豆一周画詞』書窓版画帖十連聚其九	1943 (昭和 18)	木版・紙／本
平川清蔵	「水道橋付近」『HANGA』第五輯より	1925 (大正 14) 刊	木版・紙
諏訪兼紀	「ポーズの後」『HANGA』第六輯より	1925 (大正 14) 刊	木版・紙
川西英	「静物」『HANGA』第八輯より	1925 (大正 14) 刊	木版・紙
小泉癸巳男	「山の湖水」『HANGA』第七輯より	1925 (大正 14) 刊	木版・紙
谷中安規	「鍵 (詩画集の 8)」	1933 (昭和 8)	木版・紙
恩地孝四郎	「Lyrique No.2 楽曲によせる抒情 ラヴェル“道化師の朝歌”」	1933 (昭和 8)	木版・紙
水船六州	「裸婦」		木版・紙
横井弘三	料治朝鳴氏の家族	1940 (昭和 15) 頃	油彩・合板

展示室 4 ドレッサーと日本の美術

スコットランドに生まれたクリストファー・ドレッサー (1834 - 1904) は、19 世紀後半にイギリスのデザイナーとして活躍しました。1876 (明治 9) 年に来日したドレッサーは、4 ヶ月にわたる滞在期間中に日本各地の美術工芸品の産地を訪問し、陶磁器や金属器などを研究しています。帰国後、ドレッサーは日本の美術工芸品からの影響を自らのデザインに生かして、斬新で独創的な作品を生み出しました。さらにドレッサーは、ロンドンに輸入会社「ドレッサー & ホーム」を 1879 年に設立しました。この会社を通じて、日本の美術工芸品をイギリスに輸入する仕事を始め、日本とのつながりを持ち続けたのです。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
クリストファー・ドレッサー	緑釉人物文扁壺	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉龍波濤文水差	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	黄釉竹節型小皿	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉植物刻文把手付花瓶	1892～95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	緑釉植物刻文花瓶	1892～95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	水差し「ラクダの背」	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	褐釉瓢箪型花瓶	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	紅地彩釉壺	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉水差	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	彩釉細首水差	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵花鳥模様壺	1892～95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵蝶花鳥模様瓢箪形壺	1892～95 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	色絵金彩竹梅文水差		磁器
クリストファー・ドレッサー	染付鳥波濤文把手付鉢		磁器
クリストファー・ドレッサー	緑釉蓮花刻文皿	1879～82 頃	陶器
クリストファー・ドレッサー	孔雀象嵌模様円形皿		銀、銅、真鍮
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(青海波)	1879	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	トースト・ラック(楕円型)		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	クラレット・ジャグ、黒檀把手		ガラス、金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	瓶(緑色クルーサ・ガラス)		ガラス
クリストファー・ドレッサー	蓋付きバスケット、黒檀把手	1881	金属、電気メッキ、黒檀把手
クリストファー・ドレッサー	日本風把手付き薬味入れセット		ガラス、金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きケトル		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	柳編み把手付きダブル・バスケット	1881	金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー	色絵花模様長皿とボウルのセット	1886	陶器
クリストファー・ドレッサー	ナイフとフォークのセット		金属、電気メッキ
クリストファー・ドレッサー(著)	『デザイン研究』	1874～76 刊	
クリストファー・ドレッサー(著)	『装飾デザインの原理』	1874 刊	
クリストファー・ドレッサー(著)	『日本 — その建築、美術、工芸』	1882 刊	
	色絵龍文蓋付壺(ドレッサー旧蔵日本陶器)		陶器

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●1階			
三木宗策	威容抱慈(坂上田村麻呂像)	1924(大正13)	木彫
細川宗英	装飾古墳シリーズ9	1963(昭和38)	セメント
笠置季男	躍進	1958(昭和33)	セメント
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒
●2階展示ロビー			
佐藤潤四郎	陶器で仏足跡 1・2 / 石で仏足跡		陶器/石
柳原義達	女の首	1958(昭和33)	ブロンズ
佐藤忠良	群馬の人	1952(昭和27)	ブロンズ
高田博厚	アラン像	1932(昭和7)	ブロンズ
●前庭			
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ

細川明子氏寄贈

寄託作品